

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年 8月27日

【評価実施概要】

事業所番号	2590100190
法人名	株式会社ニチイ学館
事業所名	ニチイのほほえみ大津仰木の里
所在地	〒520-0246 滋賀県大津市仰木の里3丁目5番20号 (電 話) 077-574-2631

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成22年8月3日	評価確定日	平成22年9月22日

【情報提供票より】(平成 22 年 7 月 23 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 21 年 10 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 10 人, 非常勤 7 人, 常勤換算	13.2 人

(2)建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	67,880 円	その他の経費(月額)	1日当たり 515 円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 116,000 円 無	有りの場合 償却の有無	(有) 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 280 円
	夕食	320 円	おやつ 0 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(7 月 23 日現在)

利用者人数	17 名	男性	2 名	女性	15 名
要介護1	2 名	要介護2	7 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.3 歳	最低 72 歳	最高 95 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	室町クリニック、雄琴歯科、琵琶湖大橋病院、ひかり病院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ニチイ学館が滋賀県で展開するグループホームで、自然に恵まれた景色の良い環境にあり、リビングに居ながらにして山々や田畑が望め季節を感じることができています。玄関は常に誰もが入りやすいように開放され、地域との関係を大切にしながら、利用者と職員は笑顔でゆっくりとした日々を過ごしホームの理念である「安心の居場所づくり」の実現に取り組んでいます。家族の来所時には、日々の介護記録や健康面、医療面での資料を見てもらい、丁寧に説明するなど家族の安心と理解を得る努力をされています。また年に2回地域からも参加を得て避難訓練を開催する他、毎月自主訓練をしたり、建物点検を行うなど防災に力を注ぎ、利用者が笑顔で安心して暮らせる体制を整えています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価を受け、今年度は防災対策として自主避難訓練と建物訓練を交互に毎月行い実践しています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	今回の自己評価票は、全職員に用紙を配り記入してもらったものを管理者が集約し、結果を職員に報告するなど、職員全員で取り組みました。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	運営推進会議は2ヶ月毎に家族、地域包括支援センター職員、自治会長、民生委員、訪問マッサージ院長等が参加して開催されています。会議ではホームから現状や行事の報告がなされ、避難訓練について参加者の意見を聞いたり、外部評価の説明や報告がなされています。また行事と一緒に開催するなど工夫しながら多くの意見を運営に反映させています。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	月に一度は家族の来訪があり、その際に希望や意見を聞くように努めています。また電話やケアプラン作成時にも意見を聞いています。玄関に意見箱を設置したり、書面に外部機関を掲載し、家族が意見を言いやすい体制づくりに努めています。日頃から来所時等に記録物を見てもらい利用者の様子をきめ細かく伝えており、意見が言いやすい関係を築いています。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	自治会に加入し、地域の夏祭りや運動会等の行事に参加しています。ホームの夏祭りを地域参加型のイベントになるようチラシを配るなど働きかけを行っています。地域の清掃活動や防災訓練に参加したり、子供110番の家に登録するなど、地域貢献も果たしています。小さな取り組みが実を結び、子供たちが訪ねてくれたり、ホームの畑を手伝ってくれるなど交流の輪が広がっています。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員で考えたホームの理念をもとに、ユニット毎の理念を作り上げている。「安心できる居場所づくり」をモットーに地域との関係を重視しながら、利用者が毎日笑顔で過ごせる環境作りを心がけている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関やユニット入り口の誰からも良く見える位置に掲示されている。毎月行われているスタッフ会議の中で、管理者は理念を伝え振り返る機会を設け、職員が業務に入る前に確認してからケアに入るよう努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の夏祭りや運動会等の行事に参加している。ホームの夏祭りを地域参加型のイベントになるようチラシを配り交流への働きかけを行っている。地域の清掃活動や防災訓練に参加したり、子供110番の家に登録するなど、地域貢献も果たしている。小さな取り組みが実を結び、子供たちが訪ねてくれたり、ホームの畑を手伝ってくれるなど交流の輪が広がっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価を受け、今年度は防災対策として自主避難訓練と建物訓練を交互に毎月行い実践している。また今回の自己評価票は、全職員に用紙を配り記入してもらったものを管理者が集約し、結果を職員に報告するなど職員全員で取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月毎に家族、地域包括支援センター職員、自治会長、民生委員、訪問マッサージ院長等が参加して開催されている。会議ではホームから現状や行事の報告がなされ、避難訓練について参加者の意見を聞いたり、外部評価の説明や報告がなされている。また行事と一緒に開催するなど工夫しながら多くの意見を運営に反映させている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者には、何かあれば相談や報告に行っている。市担当者からも介護保険についてや問題がある場合に問い合わせがある。今後は運営推進会議へ参加頂けるよう働きかけを検討している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ホーム便りを発行し、利用者の様子や行事、職員の紹介等を掲載している。また来所時には個々の預かり金の明細の確認や受診時の様子が書かれた医療系の伝達ノートを見てもらいサインを頂いている。その際希望があれば、個人記録のコピーを手渡すなどきめ細かな配慮が見られている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に一度は家族の来訪があり、その際に希望や意見を聞くように努めている。また電話で聞いたり、ケアプランの作成時にも意見を聞いている。玄関に意見箱を設置し、書面に外部機関を掲載し、家族が意見を言いやすい体制づくりに努めている。意見についてはすぐに対処し、家族に報告している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	年に2回管理者が個人面談を行ない、職員の悩みや意見、要望を聞いている。また日頃はフロアリーダーが様子を見て声をかけたりコミュニケーションを図り、何でも気軽に言い合える環境作りに努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では入職時研修を始め、習熟度に応じた研修に参加し、参加後はホームに持ち帰り会議等で報告し資料は回覧している。外部研修の案内は掲示し、休日を利用して個人で参加してもらっている。ホームでも委員会活動を推進し、会議で活動報告を行っている。	○	委員会活動を活かした報告に留まることなく、職員が講師となり、ホーム内で実践に繋がる勉強会を開催するなど、スキルアップの機会を確保されてはいいかな。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のホームから見学に来たり、問い合わせ等はあるが、職員が法人内も含め他の同業者と交流する機会を確保するまでには至っていない。今後は外出行事を兼ね、法人内の他ホームとの交流を検討している。	○	管理者のみならず、職員が他の同業者と交流することでこれまでの自分を振り返ったり、気づきを得ることがスキルアップにもつながる。法人内外を問わず、他ホームとの交流の実現が期待される。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学に来てもらいホームの様子を見てもらい、機会があれば再度来所して一緒におやつを食べて過ごす等雰囲気味わってもらっている。また職員が必ず自宅を訪問し、個々の生活習慣も聞きながらホームでも今までの生活環境が継続できるよう努めている。入居後も自室での生活を大切にしながら徐々に集団生活に馴染んでもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は何でも利用者に聞いている。若い職員は特に洗濯物のたたみ方から料理の仕方まで教わり、会話を多く持つことで、今昔を比較しながら楽しんでいる。また夜勤の時など、お互いに悩みを打ち明けたり、利用者に思いを聞いてもらうなど、助け合う関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族に記入をお願いしセンター方式のアセスメントシートを利用して思いや意向を把握している。入居後は職員が書き加え、シートの一部を全員の職員に毎月記入してもらったり、混乱時の様子を記録に残し、本人の思いが理解できるように努め、職員間の情報の共有にも役立てている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の希望や意見を基に作成したアセスメントを利用しながらサービス担当者会議を開き、各職員の日頃の気づきや思いを持ち寄り話し合いがなされ、現状に即したケアプランを作成している。また管理者が毎月、主治医や看護師とカンファレンスを行い、医療面での意見をケアプランに反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランは3ヶ月毎にモニタリングと評価を行い、サービス担当者会議を経て見直しされている。その後家族に確認してもらい、意見をいただいた時には修正している。状況の変化が見られる場合にはその都度見直しを行っている。プランの内容は日々の支援に繋がるよう記録され、モニタリングの際にも活かされている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の都合で行けない通院介助や洋服等の買い物に同行している。図書館へ本を借りに行ったり、馴染みの美容室に通っている利用者もいる。また空家になっている自宅に時々空気を入れ替えに帰る方もいたり、利用者の希望に沿って柔軟な支援を心がけている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に相談してかかりつけ医を決めており、以前のかかりつけ医を継続している利用者もいる。協力医は毎週往診があり、夜間や緊急時にも駆け付けてもらえるような連携体制がある。日々の健康管理は週に1度訪問看護師を受け、定期的な訪問歯科の往診や希望時には訪問マッサージが利用できる等安心して医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りに対しては入居時にホームの方針を説明し、書面を交わしている。基本は医療が必要となった場合には退去となっているが、時期が来れば家族の希望を再確認し、協力医や訪問看護師とも話し合いながら利用者にとっての最良の方法を検討している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	尊厳を守ることは理念でもあり、利用者のプライバシーを傷つける言動は慎むよう心がけ、互いに注意し合ったり、管理者が個別に話をしている。記録物はロッカーの鍵付きの書庫に保管し、個人の記録に出てくる名前などはイニシャルで表記している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起きる時間や寝る時間も個々に違い、職員は利用者の希望に応じた対応を心がけている。行事の際にビールを飲んだり、ルールを決めてタバコを楽しんでいる利用者もあり、利用者の思いや希望を大切に支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	生協を利用し食材を届けてもらっており、チラシを見ながら利用者と相談し献立を決めている。利用者は職員と一緒に下ごしらえや味見、盛り付け、テーブル拭き、片付け等を行っている。庭の畑で採れた新鮮な野菜が食卓に上ることもあり、職員は弁当を持参したり、利用者と同じ食事を摂ったりと、一緒に会話しながら楽しい食事の時間となっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴の準備をしており、10時から20時まで好きな時間帯に入れるよう支援している。職員は利用者が気持ちよく入る事が大切であると考え、お湯は毎回入れ替え、好きな湯温や入浴剤、菖蒲湯などで楽しさを演出している。また拒否が見られる場合にも無理をせず、足浴や次の日にするなどして対処している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者はモップや掃除機を使い、自分の部屋を掃除している。大津絵を描いたり、図書館や喫茶店で過ごしたり、縫物、折り紙など楽しい時間を過ごしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候の良い時期には、毎日の散歩が日課となっており、決まった散歩コースがある。散歩の際にはつくしや椎の実を摘んで食材にしている。また個別希望による嗜好品の買い物や図書館へ本を借りに出かけている。行事としてバスツアーで温泉に出かけることもある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関は地域の人が入りやすいよう開放しユニット入り口も鍵はかけられていない。そのため職員は利用者の動きを常に把握し、外に出たような様子を感じたら一緒に散歩に出かけ気分転換してもらっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回消防署の指導を受け、昼夜を想定して避難訓練を行っている。またホーム独自でも地域の消防団や自主防災地区の参加を得て、夜間を想定した車椅子の運び出しのシュミレーションや建物点検を毎月交互に行っている。次回の地域の防災訓練にはホームからも職員が参加する予定である。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回の食事摂取量や水分量は記録に残し、家族の来訪時に見てもらっている。食事は柔らかめに作るよう心がけ、状態に応じて食材を刻んだり、ミキサー食で提供している。また好みに応じて代替食で対応している。暑い時期には、いつでも水分を摂れるようテーブルの上に急須を置いている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関にはスロープを設け移動しやすくし、扉は常に開放し訪ねやすい雰囲気がある。周りを自然に囲まれ、リビングの壁には季節に応じた飾りつけを行い、いつも季節を感じることが出来ている。ウッドデッキで日光浴を楽しみ、庭の畑では季節の野菜が栽培されている。和室やソファで寛いだり、廊下の隅にベンチを置き1人になれるスペースを確保している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室前に表札を掲げ自室がわかる工夫がなされている。利用者は自宅よりベッドやタンス、テレビ、仏壇等を持参され、畳を持ち込み布団を敷いて休まれる利用者もいる。家族と相談し家具の配置を決めたり、小物を飾り居心地良く過ごされている。		